

材料残反と紙管のリサイクルとリユース化事業 (H30 年度)

(会社名) 新江州株式会社

| | |
|----------|---|
| 事業目的 | <p>◎当社では、これまで材料残反（フィルム等）と紙管は、これまで産業廃棄物として排出していました。この事業にて、開反機等の機械・設備を導入することで、材料残反をリサイクル化に、紙管をリユース化にし、産業廃棄物の排出量を削減する事を目的にしました。</p> |
| 事業概要 | <p>◎材料残反と紙管を分別するために、材料残反をほどもく開反機を、材料残反を減容化し、物流効率をあげるために、圧縮機を購入しました。その他、クレーン等の付帯設備を購入し、効率のいい作業を促進しました。</p> <p>また当社での処理するのではなく、材料メーカー等へ返却することでリサイクル・リユース活動につなげている。</p> |
| 事業結果 | <p>◎産業廃棄物用のパッカー車の実績は以下のとおり</p> <p>平成 26 年度 19 車/年 平成 27 年度 1 車/年 平成 28 年度 5 車/年 平成 29 年度 3 車/年 （事業開始前後で、排出物の削減を達成） 平成 30 年度 2 車/年</p> <p>◎分別による材料残・紙管の廃棄物を有価による引取を継続した。</p> <p>平成 27 年度 PET) 10,600 kg/年 PE) 3,300 kg/年 紙管) 44,000 kg/年 平成 28 年度 PET) 12,600 kg/年 PE) 3,760 kg/年 紙管) 38,200 kg/年 平成 29 年度 PE・PVC) 16,070 kg/年 紙管) 40,440 kg/年 平成 30 年度 PE) 7,020 kg/年 PVC) 16,000 kg/年 紙管) 50,000 kg/年</p> |
| 今後の課題と方針 | <p>◎複合品の分別（PE+PET）の分別等、工場内でのルール化が進み、各作業者の意識レベルが上がったと感じている。</p> <p>今後、産業廃棄物・有価引取ともに収集・処理が困難になっていく傾向が進むと考えられるため、材料選択・生産方式等の改善が急務となる。</p> |